

予防救急を推進します！

転倒や転落によるケガなどの事故は、「ほんの少しの注意」や「事前の対策」といった日頃からの「心がけ」や「環境づくり」を取り組むことで**防げる**ことがあります。

「事故を未然に防ぐこと」この取組みを「**予防救急**」と言います。

例えば・・・

○実は、家の中にも危険な場所が多くあります。

家庭内での事故の原因を知って、対策をしましょう！

○事故を未然に防ぐためには、ご家族などの協力も重要です。

○熱中症の対策も「予防すること」が最も重要です。

当本部では予防救急と救急車適正利用の普及啓発を行っております
講習会等のご希望がございましたら、下記担当までお問い合わせください



燕・弥彦総合事務組合消防本部
警防課 救急係

TEL 0256-92-1119
E-mail qq@tysogo.jp

【予防】できる怪我・病気

 <p>転倒</p>	<p>段差につまづかないように注意しましょう。</p> <p>転倒をふせぐために整理整頓を心がけましょう。</p> <p>階段 廊下 床 浴室などに滑り止め対策をしましょう。</p>
 <p>転落</p>	<p>階段などには手すりを配置しましょう。</p> <p>ベッドにも転落防止の柵をつけましょう。</p> <p>脚立などを使用して作業をする時は補助者に支えてもらいましょう。</p>
 <p>窒息</p>	<p>細かく調理。ゆっくりよく噛むことで窒息予防。</p> <p>お茶などの水分を取りながら食事をしましょう。</p> <p>急に話しかけて、あわてさせないように気をつけましょう。</p>
 <p>ぶつかる</p>	<p>慌てず、周りをよく見て行動しましょう。</p> <p>通路などに物を置かないようにしましょう。</p> <p>暗いところは十分な明るさを確保しましょう。</p>

【予防】できる子どもの事故



ぶつける

机の角、テーブルの角など

角の部分はやわらかいもので保護しておくなど、ぶつけてもいいように工夫しましょう。



おちる

階段、窓、ベランダなど

転落防止の柵をつけたり、踏み台になるものを置かないようにしましょう。



たべる

たばこ、薬、電池など

飲み込めそうなものは、手の届くところに置かないように注意しましょう。



ひっかける

ブラインドの紐、水筒のストラップなど

手の届かないところに置き、ひも付きのものは外して遊ばせるようにしましょう。



やけど

アイロン、熱い飲みものなど

やけどのおそれのあるものは子供の手の届かないところへ置くようにしましょう。



おぼれる

風呂場の水、ビニールプールなど

水深が浅くても溺れます。少しの間でも目を離さないように注意しましょう。